

一般社団法人大学英語教育学会（JACET）中部支部 2024年度第1回定例研究会・講演会 プログラム

日時：2024年12月1日（日）13時00分～16時40分

会場：愛知大学 名古屋校舎 講義棟3階 L307教室

（オンライン Zoom による双方向同時配信も開催します）

参加方法：JACET 中部支部ホームページ（<https://jacet-chubu.org/studygroup/>）より、
事前に参加申し込みをお願いします（参加無料）

開会挨拶 13時00分～13時05分 支部長 鎌倉 義士（愛知大学）

支部総会 13時05分～13時15分

【実践報告】 13時25分～13時55分 司会 内田 政一（桜花学園大学）
学生の意識づけとテスト結果との関係性

澁井 とし子（東京福祉大学）

【研究会研究発表】

【多文化共生と英語教育研究会】 14時00分～14時45分 司会 岡戸 浩子（名城大学）
小学校英語教科書におけるジェンダー・イメージの分析

石川 有香（名古屋工業大学）

TOEIC 教材の掲載写真映像における DEI 視点の分析

吉川 寛（中京大学）

【招待研究発表】 14時50分～15時20分 司会 今井 隆夫（南山大学）

《身体部位を道具とする行為》フレームに基づく英語メトニミー表現に対する解釈プロセスの諸相
有蘭 智美（名古屋学院大学）

【講演】 15時30分～16時30分 司会 今井 隆夫（南山大学）

AI時代に英語学習は不要になるのか？—認知言語学者からの回答—

町田 章（日本大学）

閉会挨拶 16時35分～16時40分

副支部長 今井 隆夫（南山大学）

発表概要

実践報告 13時25分～13時55分

学生の意識づけとテスト結果との関係性

The relationship between learners' awareness and the test results

澁井 とし子（東京福祉大学）

本研究では、授業内テストの取り組みを振り返り学習者の内省力を上げ、自分に適した学び方を見つけることができるのか。学習者の目標意識とテスト準備の意識はテスト点数にどのような影響を及ぼすのかを調べた。研究対象は大学生109人、必修英語科目で調査を行った。英語に苦手意識のある学習者が多いため、初回授業で各自学期末に目指す英語目標設定を行い、振り返りで目標を維持した。授業では既習事項の単語と作文のテストを試みたが、勉強方法が不明な学習者は教員が支援した。初回設定目標を意識していたかを尋ねる5件法の質問紙調査を行ったが、それとテスト結果の相関は $r=.27$ となった。テスト準備の意識とテスト結果の相関は $r=.51$ となり、目標よりテスト準備の意識がテスト結果には有意であった。またテスト2～5回目に勉強方法がわかるか4件法の質問紙調査を行ったが、連続値ではない順序データであったため、ノンパラメトリック検定を行ったところ有意となった。次に事後比較をしたところテスト2回目と5回目、3回目と5回目が $p<.001$ となった。テスト結果を見て自分の学び方を修正し勉強することで、学生の学ぶ意識に徐々に変化が見られた。

【多文化共生と英語教育研究会】

小学校英語教科書におけるジェンダー・イメージの分析

石川 有香 (名古屋工業大学)

グローバル化が急速に進む日本社会では、他者と協働することができる「多文化共生力」の重要性が高まっている。英語教育においても、単なる英語の知識や技能の育成にとどまらず、ステレオタイプを脱し、多様な価値観を受け入れる力や、多角的に物事を捉える力を育成することが喫緊の課題となっている。しかし一方で、学校教育の場には依然としてさまざまなステレオタイプが根強く残っていることが指摘されている。特に、教科書は、学校という「権威」の中で使用され、一般的に、「正しい」または「標準的な」価値観を提示していると考えられている。学校でも家でも、1年をかけて繰り返し読まれ読まされる教科書が児童に与える影響は大きい。そこで、本発表では、多文化共生力育成の観点から、英語教科書に現れるジェンダー・イメージを分析する。

小学校英語教育は2020年に必修化され、小学校英語教科書は2024年に改訂されている。2種類の教科書に使用されているイラスト・写真を調査した結果、男女のイラストや写真の数には大きな差がなく、男女平等に配慮された構成となっているものの、詳細な分析からは、女子児童・男子児童の描写、女性教員の描写、一般的な女性・男性の描写には、ジェンダー・ステレオタイプが散見されることが明らかになった。ステレオタイプは人の判断や行動に深く関わるが、我々は、自分の中のステレオタイプには気が付きにくい。教育に携わる者すべてが、教科書の内容や視覚表現に対してより敏感でより批判的な視点を持つことで、多文化共生を実現する教育環境の構築が可能になると考える。

TOEIC 教材の掲載写真映像における DEI 視点の分析

吉川 寛 (中京大学)

DEI (Diversity, Equity, and Inclusion) の視点から、TOEIC 教材における掲載写真映像の分析を試みた。TOEIC は米国の非営利団体 ETS が提供する非英語母語話者の国際コミュニケーション力を調べるビジネス系英語能力検定試験である。2016年の受験者数は世界150カ国700万人で、その内日本人が250万人、韓国人が200万人となっている。日本では、高得点が入社条件、昇進条件、受験条件、進級条件などに利用されている。特に、企業の英語検定試験の利用度(複数回答)では、TOEIC 97.5%で、英検 12.2%、TOEFL 6.1%と比べて群を抜いている。日本人ビジネスパーソンが商談などで、英語でコミュニケーションを行う相手の80%はアジア人と言われていることが、英検や TOEFL より TOEIC が好まれる理由であろう。

上記のような TOEIC の特徴を前提として、某 TOEIC 教材の30枚の掲載写真映像を DEI の視点から分析を行った。その結果、①登場人物の人種的な偏り、②撮影場所の偏り、③登場人物に男女役割分担の傾向、④(白人)男性優位の暗示、等の分析結果を得た。この結果から、分析対象とした TOEIC 英語教材は、十分に「脱ステレオタイプ化」、「公正性」の概念が採り入れられているとは言いがたいと言える。恐らく、出版社の意向、写真映像の著作権など著者への縛りはあると思うが、公正で偏見のない国際コミュニケーションの構築を目的とする TOEIC 教材が求められる。

招待研究発表

14時50分～15時20分

《身体部位を道具とする行為》フレームに基づく英語メトニミー表現に対する解釈プロセスの諸相

有菌 智美 (名古屋学院大学)

メタファーやメトニミーといった比喩は、日常的に用いられ、多様な機能を果たすため、目標言語の比喩を理解・産出する能力の向上は学習者にとって重要である (cf. Littlemore 2023)。外国語のメトニミーに関しては、メタファーに遅れを取りながらも、解釈の成否に関わる要因や採用されるストラテジーが明らかにされつつある。特に、母語に対応する表現がある場合や、基本義と比喩的意味のリンクがイメージしやすい場合には、解釈が容易である可能性が指摘されている (Littlemore and Low 2006, Piquer Píriz 2008)。

これを受け本研究では、有菌 (2020) を参考に、教師の介入を想定した状況での学習者2名による協同解釈に焦点を当て、母語転移の関与が想定される解釈プロセスの実際を見る。対象となるのは英語の *hand* を含むメトニミー表現で、これは日本語の「手」と共通する「《身体部位を道具とする行為》フレームに基づくメトニミー」に基づき、〈行為者〉や〈行為の対象〉などの意味に拡張している。本研究では、このような表現の解釈において、L1からの正の転移は必ずしも見られず、母語における対応表現の有無は解釈の成否の鍵とはならないこと、それよりも文脈の手掛かりの活用、文脈との照合による仮説の検証、イメージ形成といったストラテジーが有効に働くことを示す。

【発表者紹介】

有菌智美 (ありぞのさとみ)

明治学院大学大学院英文学研究科 (文学修士)、University of Birmingham School of English, Drama and American & Canadian Studies 修了 (応用言語学修士)、名古屋大学大学院国際言語文化研究科 (文学博士)。現在、名古屋学院大学外国語学部教授。専門は認知言語学。

(主な業績と活動)

「第7章 述語的な慣用的連結句から見た日本語身体部位詞とフレーム」(単著) 2022, 松本曜・小原京子 (編) 『フレーム意味論の貢献 — 動詞とその周辺 —』, 開拓社。

“The interpretation of metonymy by Japanese learners of English,” (共著) 2018, In Ana María Piquer-Píriz and Rafael Alejo-González, eds., *Applying Cognitive Linguistics: Figurative language in use, constructions and typology*, 51-72, John Benjamins.

国立国語研究所基幹型共同研究プロジェクトの共同研究員として、日本語教師・学習者のためのオンライン辞書『基本動詞ハンドブック』作成に従事 (2013年～2022年)

講演概要

15時30分～16時30分

AI時代に英語学習は不要になるのか？ ——認知言語学者からの回答——

町田 章（日本大学）

これまでの日本では英語を学習することの必要性に関してはほとんど疑念を持たれることがなかった。よし悪しはともかく、様々な言語話者同士が意思疎通を図るためにはリンガフランカ（共通語）が必要であり、英語は国際化社会を生き延びるための実質上のリンガフランカであったからである。しかしながら、高度な AI 翻訳が無料で利用できるようになった今、この状況は一変した。リンガフランカがなくともスマホが一台あれば、異なった言語話者同士の十分な意思疎通が可能となったのである。

今、英語を学習することの必要性に疑問が投げかけられている（cf. 隅田 2022）。便利な AI 翻訳があるのに本当にこれまでのように英語を学習する必要があるのかと。本講演では、今こそいったん立ち止まって、冷静に外国語学習の意義について整理する必要があるという認識のもと、母語以外の言語を知ることの不変的な意義と、今後密かに高まるであろう外国語教育に携わる者の使命について考えてみたい。その際、言語と思考と文化の関係性を認知言語学の観点から整理し、言語学習が持つ見えない文化(invisible culture)を可視化するという役割とその意義について考察する（cf. 町田 2023, 町田 to appear）。

【講師紹介】

町田章（まちだ あきら）

大阪大学文学研究科博士後期課程単位取得退学。長野県短期大学、広島大学を経て、現在、日本大学法学部准教授。専門は認知言語学、英語学、日本語学。

（主な業績と活動）

『AI時代に言語学の存在の意味はあるのか？—認知文法の思考法—』（単著）2023, ひつじ書房。

『認知統語論』（共著）2022, くろしお出版。

Objectification and Diffusion of Subjective Elements: Toward a Unified View of (Inter)subjectivity, 2022, *Journal of Cognitive Linguistics* 7, 1-23.

Thinking for Writing, (単著) 2019, 音羽書房鶴見書店。

広島大学教育賞, 2017.

会場のご案内

愛知大学 名古屋校舎 講義棟3階 L307教室

〒453-8777 名古屋市中村区平池町 4-60-6



■ フロアガイド

| 厚生棟 | |
|-----|--|
| 10F | 学生サークル室・学生会議室 |
| 9F | 学生サークル室・学生会議室 |
| 8F | 学生サークル室 |
| 7F | スタジオ・武道場・多目的競技室・和室 |
| 6F | アリーナ(体育館)・フィットネスルーム |
| 5F | グローバルラウンジ・ささしま21リソースルーム・総務課 教務課・学生課・国際交流課・保健室・ 学生相談室・ボランティアセンター・スポーツ支援センター |
| 4F | キャリア支援センター(キャリア支援課) 地域連携推進事務局・メディアゾーン・情報システム課 |
| 3F | 図書館・国際ビジネスセンター・国際中国学研究センター ささしま地域連携研究センター・研究所・学生会室 |
| 2F | 図書館 |
| 1F | キャンパスレストラン・図書館 |

講義棟

| | |
|-----|------------------------|
| 11F | 教室・学生ラウンジ |
| 10F | 教室・学生ラウンジ |
| 9F | 教室・学生ラウンジ |
| 8F | 教室・公務員志望者学習室 |
| 7F | 教室・公務員志望者学習室・ゼミ室 |
| 6F | 教室・ゼミ室・教職課程センター室 |
| 5F | 教室・ゼミ室 |
| 4F | 教室・ゼミ室・グループ学習室 |
| 3F | 教室・ゼミ室・グループ学習室・学生生活支援室 |
| 2F | 教室・学生ホール・広報課 |
| 1F | フードコート・店舗・防災センター |

本館(研究棟)

| | |
|-----|---------------------|
| 20F | スカイラウンジ・会議室 |
| 19F | スカイウォーク・会議室 |
| 18F | スカイウォーク・研究室 |
| 17F | エコボイド・スカイウォーク・研究室 |
| 16F | 研究室 |
| 15F | 研究室 |
| 14F | 研究室 |
| 13F | 研究室 |
| 12F | 研究室 |
| 11F | 研究室 |
| 10F | 研究室 |
| 9F | 研究室 |
| 8F | 研究室 |
| 7F | 教室・共同研究室 |
| 6F | 大学院生フロア |
| 5F | 学習・教育支援センター 講師控室 |
| 4F | 教室・大学院事務課 |
| 3F | 教室・ゼミ室 |
| 2F | ラーニング コモンズ |
| 1F | 総合受付・ 防災センター |

※2024年4月現在のものです。※講義棟2Fから、あおなみ線「ささしまライブ」駅まで「歩行者デッキ」で接続しています。 ※各棟を2Fと5Fの通路で接続しています。

<https://www.aichi-u.ac.jp/profile/campus/nagoya#b-406697>

鉄道をご利用の場合：「名古屋」駅より徒歩約10分

あおなみ線「ささしまライブ」駅下車 歩行者デッキ直通
近鉄「米野」駅下車 徒歩約5分

バスをご利用の場合： ささしまウェルカムバス「ささしまライブ」下車

名鉄バス「愛知大学前」下車

名古屋市営バス「ささしまライブ」下車

事務局からのお知らせ

☆ 当日、第2回中部支部総会（13時05分～13時15分）を行います。



2024年度第1回定例研究会・講演会（12月1日）

参加申し込みサイト

<https://forms.gle/w28WYNXCFf6GDqPx7>

事務局からのお知らせ

☆ JACET 中部支部 2024年度第2回定例研究会を2025年3月1日（土）に南山大学にて開催します。

JACET 中部支部の本年度最後の研究会となります。

研究発表申し込みに関する詳細は、追って中部支部ホームページ

（<https://jacet-chubu.org/studygroup/>）にてご案内いたします。

どうぞ皆様、日ごろの研究成果をご発表いただけますようお願いいたします。



JACET 中部 HP

お問い合わせは、JACET 中部支部事務局までお願いします。

支部事務局：静岡大学 大瀧綾乃研究室内

otaki.ayano@shizuoka.ac.jp